

K について調べたこと — Corea/Korea からの疑問

2002-12-13

I.Nishida

(Richmond E.S.)

2002 年も暮れようとしています。今年一年もいろいろなことがありました。日本経済は言うまでもなく、バブルの後遺症から抜けきれないままの厳しい状況が続きました。しかし、明るい話題では、今年、日本人 2 人が同時にノーベル賞受賞者に選ばれました。また、決してきれいとは言えない多摩川や横浜の運河にアザラシの「多摩ちゃん」がきてくれたのはほほえましい事でした。

国際関係では、今年ほど、お隣の韓国と北朝鮮が大きくクローズアップされた年はありませんでした。特に、韓国とは 5 月に開催されたサッカー・ワールドカップの共催を通じて国民の幅広いレベルで親密感が生まれたことは歴史的に特筆されるべきでしょう。その反対に、年の後半になって、北朝鮮に拉致されていた一部の人々が 20 数年ぶりの帰国が実現しました。そして、多くの報道を通じて北朝鮮の実態というものをあらためてと知ることとなりました。両国は地理的に日本に一番近い国ですが、一方はますます近くなり、他方は一層遠い国となった思いがします。

さて、韓国および北朝鮮を英語では、**Korea**、**North Korea** と表記するのはご存知のとおりです。しかし、サッカー・ワールドカップで大健闘した韓国チームのテレビ中継を見ていたときに、スタジアムの韓国の大応援団の人々全員が「**Corea**」と書かれたバナー（横長の小旗）を振って応援されていたのに気が付きました。一般に二国間の出来事や条約を表記するときに、日本側からは「日韓」、韓国側からは「韓日」と記するのが普通でしょう。そこで、韓国の人たちが、アルファベット順で韓国を常に日本 (**Japan**) よりも前に置くために「**Corea**」と書き換えたのかとも思ってみましたが、試合は全世界にテレビ放映されるわけですから、**Corea** が間違いであるはずはありません。そこで、今回 **Corea/Korea** について調べてみました。その結果を記します。

結論

(a)**Corea/Korea** どちらも正しいといえる。本来は、母音 **o** の前では、**C** が使われるが、ドイツ語の影響、また、英語では外来語の口蓋音表記に **K** を用いるこ

とが多いことから **K** を用いて **Korea** と書くのが現在では通常となっている。
(b)ポルトガル語、スペイン語、イタリア語、フランス語などのラテン（ロマンス語）系の言葉では、**C** を使う。ゲルマン系のドイツ語では、**K** を使う。

1. Corea/Korea の由来

そもそも韓国と北朝鮮を含めた朝鮮を **Corea/Korea** と書くのは、西暦 936 年に半島を統一した「高麗」(*Koryo*)王朝の名前に由来があり、その原義は、『高い山やきらめく川の国』を意味しているそうです。(研究社・新英和大辞典)。第二次世界大戦後の 1948 年には、北緯 38 度線を境に韓国（大韓民国）と北朝鮮（朝鮮人民共和国）とに分断状態にあることはご存知のとおりです。

英語の文献上最も古くに朝鮮が言及されているのは、**Oxford English Dictionary(OED)**によりますと、1614 年、**R. Cocks** という人が手紙の中で朝鮮の貴族を **Corean Noble-man** と、**C** で始まる **Corea** で綴っています。**K** で始まる **Korea** と書かれた最初の文献は、同じく **OED** では、1885 年 **E.W. Hamilton** という人が日記の中で **Korean territory** と書いたのが最初です。

しかしこれは、あくまでも英語で書かれた文献上の話であります。

日本や朝鮮半島など極東アジア地域とヨーロッパ諸国との最初の接触は、16 世紀の大航海時代以降に、イエズス会に属するポルトガルやスペインの宣教師たちがキリスト教布教を目指してやってきた時でありましょう。そして彼らの言葉（ラテン系の言語）によって朝鮮や日本の文物がヨーロッパ諸国に紹介されたものと考えられます。特に、朝鮮は中国大陸と陸続きであり、すでに 1535 年にはポルトガルがマカオに進出し中国で商業活動を始めていたことから朝鮮の文物・文化は、海を隔ている日本以上に早く、また量的にも多くが西欧諸国に伝えられていても不思議ではありません。

2. アルファベットの歴史 — **K** の変遷

人類が文字を発明し、記録として伝え、残すことを可能にしたのは大変なことでもあります。現在、世界で最も広く使われている文字体系はアルファベットで、その歴史は 3500 年前の原セム文字に遡るといわれています。文字の歴史を詳しく調べてみるのも文化史として大変面白そうですが、ここではあまり深く掘り下げることは止め、一応、ギリシャ・アルファベット、ラテ

ン・アルファベットから話を起こしてみます。

(1) ギリシャ・アルファベット

ギリシャ・アルファベットには、A (alpha)、B (beta)、Γ (gamma)、Δ (delta)、・・・などの 24 文字は、4 世紀中ごろに古典ギリシャ文字として成立しました。

その後、このギリシャ・アルファベットは、ギリシャ正教とともに、ロシア、ウクライナ、ブルガリアなどの北方地域に広がりそこでグラゴール・アルファベットとなり、また、南部・南イタリア方面に広がっていったものがエルトリア・アルファベットに発展しました。なお、「アルファベット」というのは、このギリシャ語の A (alpha)、B (beta) からきているのは言うまでもありません。

(2) ラテン・アルファベット

ラテン・アルファベットは、ギリシャ・アルファベットが南方に伝播したエルトリア・アルファベットを経て成立しました。文字 (字母) 数は、途中に出入りがありますが 23 文字 (現英語の j, u, w に当る文字が落ちた) であります。

ここで本論の **Corea/Korea** の頭文字 **C/K** についてであります。ラテン・アルファベットでは次に述べる大事な事が分かっています。箇条書きにすると、**(a)C** は、**[k]** 「クッ」、**[g]** 「グッ」の口蓋音に用いられた。

(C は、ギリシャ語 Γ (ガンマ) に相当。後に、G の元ともなる)

(b) 6 – 8 世紀ラテン語では、**C** は母音 a, o, u の前で、**K** は母音 i, e, y の前で使われた。

(c) しかし、**K** はしだいに用いられなくなり、**Kalendae, Kaeso** など少数の語に限られるようになった。

ということが分かっています。

したがって、アジア、中国大陸に渡来してきたラテン系のポルトガル人やスペイン人の宣教師がはじめて、中国大陸の東端の「コーリョ (高麗)」を見聞きした時に、その音からして、文字 **K** でなく、**C** を用いたことは当然と考えられます。

(参考: スペイン語/イタリア語 **Corea**, ポルトガル語 **Coréa**, フランス語 **Corée**)

(3) 英語アルファベットと **K** : **K** の復権

ラテン・アルファベット文字を使っているローマ帝国は、紀元前 53 年から西暦 413 年までの約 500 年にわたって、今のイギリス本島をその属国として支配しました。このことから英語の表記文字として、ラテン・アルファベットの文字が基本になっていることはうなずけます。

しかし、言語としての英語は、北欧のヴァイキング、デンマーク人などのゲルマン語族の人々が数多くイギリス本島に移住してきたことから系列的にドイツ語に近いといわれています。しかし、1066 年にはフランスのノルマンディー公ウイリアムがイングランドを征服し、以降 300 年にわたってイギリスでの支配階級ではフランス語が事実上の公用語となってしまったこともあります。このようなことから、英語は言語的に非常に多様性、柔軟性に富む言語という特徴があります。

そこで、本論の英語アルファベットの文字 **K** についてですが、**Oxford English Dictionary** は文字 **K** だけでも数ページにわたって大変詳しく説明しています。要点を整理して抜き出すと、

(a)古期英語（11 世紀以前）英語では、「クッ」、「グッ」などの軟口蓋子音、無声閉鎖音には、**C** が主として用いられた。

(b)1066 年のノルマン征服後、**C** は a, o, u, l, r の前で、**K** は、e, y, i（後に n）の前で使われるようになった。

(c)しかし、本来のギリシャ語からの語は、**C** ではなくもとの **K** が使う（kaleidoscope、kinetic, kudos,....）

なお、kilogram, kilometer の kilo- は、ギリシャ語の χ (chi) からきている。

(d)近代になってそれまで、**K** は ke-, ki-, kn の頭文字に限られていたが、大英帝国の拡大にともない、東洋、アフリカ、オーストラリア、オセアニアなどからの動植物名、貿易品の名前でその発音が軟口蓋子音に近いものには **K** を使うことが多くなった。（アラビア語、トルコ語、ペルシャ語、ヒンズー語の喉から出す摩擦音 (fricative and aspirated sound) には kh を使うようになった - 例: Khan, Khalif, Khatoum)。そして、このように外来語に **K** を用いる傾向は、非英語のニュアンスを持たせるため ka-, kh-, kl-, ko-, kr-, ku- にも広がっていった。

以上の調べで、英語でお隣の韓国を **Korea** と綴ることが現在では通常となったことが分かりました。しかし、歴史的に見て **Corea** と綴っても決して誤りではないことも分かりす。少し大きめの英和辞書（ランダムハウス英和大辞典など）では、**Corea** もちゃんとエントリされています。

今回、たまたま、アルファベットの **K** からアルファベットの歴史を勉強してみました。何も **K** に限らず、**F, I, V, W** などの文字にもそれぞれ面白い変遷の歴史があります。いうまでもなく、アルファベットそのものは表音文字です。しかし、この表音文字のアルファベットが、発音、発声、音価がそれぞれ異なる多くのヨーロッパの言語（トルコ語やマレー語、インドネシア語もアルファベットを使っている）に若干の変化や工夫があるにしても基本的に共通文字としてつかわれているのは、中国を起源とする表意文字である漢字が、言語的にも大いに異なる中国語、朝鮮語、日本語などで共通的に使われているのにも似て面白いものがあります。

なお、参考までに、日本でもローマ字を日本国字にしようとする運動が明治時代にありました。田中館 愛橘 という立派な物理学博士が日本式のローマ字を主張し、ローマ字国字論を展開されました。今でも、社団法人日本ローマ字社があつて毎年 5 月 21 日（田中館 愛橘 博士の命日から）を「ローマ字の日」として運動を続けているそうです。

アルファベットのローマ字というものが日本でも普及したことで、今、このように打ち込んでいるパソコン・ワープロもローマ字入力を使っています。

[付録の雑学 1]

英語アルファベット 26 文字のうち、単語の頭文字として一番多く使われる文字は **s**、その後は **c, p, a** の順である。少ない順にあげると、**x** がもつとも少なく、次に少ないのが、**z, y** の順となる。なんと、**k** は下位から 4 番目という少なさである。（**q** よりも少ない）。なるほど辞書で調べてみると、**K** のページ数は少ない。

（全 26 文字を多い順にあげると、
s-c-p-a-t-d-b-m-f-i-e-h-l-r-w-g-u-o-v-n-j-q-k-y-z-x）

[付録の雑学 2]

C, K の使い分けの混乱は、実際は他の言語でも続いたが、現代ドイツ語では、**K** が完全に主流となり、**C** で始まる単語の数は非常に少なくなった。逆に、フランス語では、**K** で始まる単語は極端に少ない。ほとんどが **C, Qu** によって取って代わられた。

[付録の雑学3]

「職業」、「経歴」などの意味である **career** を「キャリアー」と発音する人が結構多いですが、正しい発音は、**Korea** の発音とまったく同じ。一度、辞書で確認してみてください。